【別紙様式１】

令和５年度学校経営計画表

１　学校の現況

学校番号	特23	学校名	県立境特別支援学校	学校長名	塩畑　道代
副校長名	舘　淳一朗	教頭名	佐藤　教子　荒井　幸枝	事務（室）長名	齊木　均志

教職員数	教諭	101	養護教諭等	2	常勤講師	36	非常勤講師	6	実習助手等	2	栄養職員	1	事務職員	3	技術職員等	11	計	162

児童・生徒数	部	１年			２年			３年			４年			５年			６年			合計			合計クラス数
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
	小学部	17	8	25	15	8	23	19	8	27	15	11	26	17	7	24	10	7	17	93	49	142	34
	中学部	14	9	23	13	10	23	15	12 (1)	27 (1)										42	31 (1)	73 (1)	16
	高等部	27 (2)	5	32 (2)	19	13 (3)	32 (3)	28 (2)	9	37 (2)										74 (4)	27 (3)	101 (7)	19
	合計																			209 (4)	107 (4)	316 (8)	69

※（　）は訪問教育生で内数

２　目指す学校像

◆一人一人が自ら行い自ら学び、できる喜びを感じることができる学校　「かがやく学校」

◆学んだことを周りの人に伝え合い、分かち合うことができる学校　「ひびきあう学校」

◆学校と地域が助け合い、認め合い、多くの人と繋がり合える学校　「つながる学校」

3　現状分析と課題（数量的な分析を含む）

項　目	現　状　分　析	課　　題
学校経営	【安全安心な学校】 ○日常生活の様々な場面で、手洗いやうがいなど児童生徒自身ができる衛生や健康につながる体力づくりの活動を意識的に実施している。 ○施設設備の定期点検やヒヤリハットに基づき、応急処理や改修を迅速に実施している。 ○感染症対策において学校生活を送る上で大切な、安全安心な環境作りやガイドラインに基づいた衛生管理を励行している。 ○児童生徒が災害に対する備えを身につける活動や大災害時の体制作りを実施している。 ○児童生徒の大けがや命につながるような緊急事態を想定し、各学部学年で研修を行っている。 【地域との連携】 ○交流及び共同学習への積極的参加の呼びかけや直接的な交流活動を進めている。 ○幼小中高や地域からの特別支援教育に係るニーズに組織で対応できるよう、全職員で発信型の連携体制構築を目指している。 ○市町の福祉や教育に関する話し合いに、PTA 代表として参加し、現状の把握や要望の発信を行っている。 ○地域行事への積極的参加や HP での情報発信による本校への理解推進を進めている。 【職員の意識改革】 ○教員不祥事を起こさないための研修や情報共有、意見交換を行い、当事者意識の醸成に努めている。	・児童生徒の実態に即した「健康衛生」や「体づくり」に係る学習内容や方法の工夫 ・安全管理面での教職員の気づきと迅速な対応 ・感染症対策の現状の継続及び学習継続のための対応の検討 ・実際の有事を想定したより実践的な訓練の実施による改善と機能する体制の確立 ・日常のヒヤリハットやケガ等の事案検討による命や大けがに関わる事故につながらない対応検討し研修の充実 ・交流相手との相談による直接的でより成果の上がる交流内容や方法の検討 ・特別支援教育の専門家として本校からの情報発信を強化し、持続可能な支援内容や支援方法の検討 ・より機能的で成果のある地域との連携方法の検討・提案 ・一方からの発信にとどまらない双方向でのやり取りの検討 ・教員コンプライアンス違反につながらないための学校風土の醸成と研修の継続
学習指導	【充実した授業づくり】 ○新学習指導要領を踏まえ、充実した授業づくりを推進するために、個別の指導計画の見直しや各教科等での目標を的確にとらえた指導を実践している。 ○ICT 機器を活用し、各学部段階に応じた育てたい力を意識した授業作りを実践している。 ○データ化した教材の利活用による指導の充実を図っている。 ○学齢に応じた、また発達段階に即した教育課程見直しと策定を行い、小中高一貫性のある指導を心がけている。	・育成を目指す三つの柱（「学びに向かう力」「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」）による目標の設定と実際の授業の充実、三観点による評価 ・教員一人一人の専門性の向上のためのICTに関する段階的な研修の継続とともに児童生徒のICT機器利用の効果的活用の推進 ・データ活用の現状と蓄積における課題の分析 ・発展的な教育課程の検討を行うためのこれまでの経

	○よりよい卒業後の生活に向けた体験型学習やデュアルシステム型の学習を積極的に行っている。 【専門性の向上】 ○校内研修として新学習指導要領を踏まえた研修を進めている。 ○若手教員、中堅教諭等の研修及び基本研修の研究授業や研究協議等の校内研修を計画的に進めている。 ○各学部で発達段階や学齢時期に応じたケース会議を開き、児童生徒の理解や適切な支援についての知識を深めている。	緯や課題の集約 ・進歩的、体験的な学習実現のための創意工夫の充実による進路選択の充実 ・児童生徒の実態により段階を見極め、手掛かりにして評価の観点を抑える ・年次研修対象者にとどまらない職員全体への研修意欲を高める取り組みの充実 ・支援内容や方法について、経験年数や立場によらない検討方法の模索

4　中期的目標

Ⅰ　児童生徒の自己実現に向けた教育を推進し、自立と社会参加を目指す力を醸成するために、ICT 機器や体験型学習・実習等を活用した児童生徒の個々の課題やニーズに応じた指導・支援を進める。

Ⅱ　児童生徒が安全に安心して活動でき、また保護者が安心して託せる学校であるために、施設・設備や学習環境の点検整備や緊急時や災害時の支援体制や危機管理体制の構築を進める。

Ⅲ　児童生徒の豊かな成長を支えていく「地域と共にある学校づくり」を進めるために、積極的に小中学校や地域との連携を強化し、情報発信を心がける。

Ⅳ　「信頼され続ける学校」であるために、教職員の専門性向上や危機管理への対応に係る研修を進めるとともに、教員コンプライアンスを実現するための取り組みを実践する。

5　本年度の重点目標

重　点　項　目	重　点　目　標
Ⅰ　ニーズに応じた指導の充実	① 様々なＩＣＴ機器を活用したアクティブラーニングの実践 ② ＩＣＴ環境の充実と、教材データ化による指導の充実 ③ 発達段階に応じた教育課程による小中高一貫性のある実践 ④ 体験型学習やデュアルシステム型実習の積極的活用
Ⅱ　安全安心な学校作りの推進	① 児童生徒の心身の健康を図る保健安全、食育指導の実践 ② 施設・設備の点検改修による安心安全な環境作り ③ 感染症のガイドラインに基づく持続可能な学習環境作り

	④ ＰＴＡや地域と連携した大災害時の防災体制の確立
Ⅲ　地域の連携とセンター的機能推進	① 地域・小中高との交流推進や地域行事への積極的参加 ② 地域のセンター的機能としての支援の充実 ③ 外部団体や地域資源を活かしたＰＴＡ活動の充実 ④ 学校教育活動の公開やＨＰを利用した情報発信
Ⅳ　教員の意識向上のための研修の充実	① 教員が学び合うための現職教育の充実 ② 特別支援教育の専門性を高めるための研修 ③ 児童生徒同士の健康や安全を守るための研修の実施 ④ 教員コンプライアンス意識を高めるための研修